

卒後頭痛教育研修カリキュラム(2007.12版)

2007年11月の日本頭痛学会総会において学会の組織改変があり、あらたに専門医認定委員会、その下部組織として施設認定・生涯教育委員会が発足いたしました。これに伴ない卒後頭痛教育研修カリキュラムを作成いたしました。このカリキュラムは日本の医療の現状、米国の学生向けの教育カリキュラム、日本頭痛学会【編】、慢性頭痛の診療ガイドライン、医学書院、2006-02-15出版の内容をもとに作成したもので、今後の卒後頭痛教育、卒前教育の指針となることを目指しております。

お気づきの点やご意見は日本頭痛学会「施設認定・生涯教育委員会」あてにお寄せいただければさいわいです。今後会員各位のご指摘や委員会の討議により、このカリキュラムをより良いものに改善・改訂していく予定です。

2007年12月5日

施設認定・生涯教育委員会

委員長 間中信也

副委員長 平田幸一

・頭痛のサイエンス

1. 頭痛の疫学・社会医学

医療経済学、日本の頭痛医療の現状、有病率、生活支障度(健康への影響 burden、健康寿命への影響、QOLの阻害)、自然経過(自然史)、予後に関する知識

2. 頭痛に関する解剖学

三叉神経, 中間神経, 三叉神経尾側核,
脳幹(PAG, Raphe, LC), 視床

3. 頭痛と関係する神経伝達物質(薬理学)

とくに片頭痛とセロトニンの異常,
ドパミンと片頭痛

4. 疼痛に関する神経機構と鎮痛機構

PAG, 疼痛抑制系など

5. 頭痛に関する病態生理学、頭痛の発生機序、メカニズム

三叉神経血管説、神経原性炎症、片頭痛発生源(migraine generator)、末梢性および中枢性感作、アロディニア、脳血流/脳血管の神経支配、血小板の関与、自律神経の変化、片頭痛の経年変化(片頭痛は進行性病変か、Life Disease としての片頭痛の理解)、頭痛連続説

ウルフの血管説は、片頭痛の病態生理学の理解を妨げるので、強調して教えない

6. 拡張性抑制(cortical spreading depression)

グリアの役割

7. 頭痛の分子生物学、遺伝、遺伝子、家族性

家族的発生の理解、片頭痛に関係する遺伝子、家族性片麻痺性片頭痛/CADASIL/MELAS

.頭痛の臨床

1. 頭痛診療ガイドラインの理解

2. 頭痛の分類と診断

a. 国際頭痛分類第2版(ICHD-)の理解

ICHD- の原理原則、ICHD- の分類体系

混合型頭痛ないし混合性頭痛なる頭痛タイプの是非

慢性連日性頭痛(CDH), 変容性頭痛(Transformed migraine)の理解

3. 主要な頭痛診断基準の把握(片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛など)

各頭痛タイプに共通する項目

総論/概念/解説

頭痛の歴史

分類・病型

疫学、有病率、生活支障度(健康への影響(burden))、自然経過(自然史)、予後病態、発生機序、メカニズム

危険因子、誘発因子(誘引)、増悪因子、軽快因子、日周期性

診断

診断基準、診断

診察(身体所見/神経所見/精神・心理所見)

随伴症状/陽性症状/陰性症状

鑑別診断(片頭痛 vs. 緊張型頭痛 vs. 群発頭痛 vs. 三叉神経痛 vs. 二次性頭痛ほか)

共存症の把握

検査/画像診断

治療

(薬物)治療計画

急性期治療

予防療法

処方薬(西洋薬)以外の治療法

認知行動療法、東洋医学的治療(漢方、鍼灸)、OTC 治療、代替治療(ハーブ、サプリメント、非薬物的治療(体操、物療など))、ペインクリニック治療、外科的治療

薬物の副作用・有害事象

治療に対するノンレスポンスの原因追究と対策

予防・指導(服薬指導、生活指導)

話題、トピックス、新薬、新しい治療、注目すべき治療、今後期待される治療

4. 症候別頭痛の鑑別診断

- a. 突然の頭痛、初発の頭痛，雷鳴頭痛の種類と鑑別
- b. 部位別鑑別診断
- c. 短時間持続性頭痛の鑑別
- d. 一側性頭痛の鑑別
- e. 早朝頭痛の鑑別
- f. インドメタシン反応頭痛の理解

5. 片頭痛については

前兆のない片頭痛、前兆のある片頭痛、慢性片頭痛、特殊片頭痛、片頭痛重積症、予兆/前兆について熟知する。

6. 一次性頭痛の問診と診断

- a. 的確に頭痛の問診と診断が行える
- b. 随伴症状、陽性症状と陰性症状の理解
- c. 頭痛の鑑別(片頭痛/緊張型頭痛、片頭痛/群発頭痛、群発頭痛/三叉神経痛など)
- d. 一次性頭痛と二次性頭痛の鑑別
- e. 頭痛診療支援ツール、コミュニケーションツール(問診票、スクリーナー、支障度(重症度)判定スケール(MIDAS/HIT-6)、疼痛評点スケール)の利用
- f. 頭痛ダイアリーを頭痛治療に活用できる

7. 二次性頭痛

- a. 病歴聴取と内科的・神経学的検査により二次性頭痛を診断し鑑別できる
- b. 主要な二次性の頭痛の診断と対応が可能である。主要な二次性頭痛を例示する。薬物乱用頭痛は二次性頭痛の中でも特殊な頭痛であるので後に再度示す。

頭頸部外傷による頭痛

慢性硬膜下血腫

頭頸部外傷後頭痛

脳血管障害による頭痛

くも膜下出血

くも膜下出血の重要な臨床像と雷鳴頭痛の他の原因

血管解離

巨細胞動脈炎(側頭動脈炎)

脳腫瘍、頭蓋内圧亢進性頭痛による頭痛

特発性頭蓋内圧亢進

特発性低髄液圧性頭痛(脳脊髄液減少症)

腰椎穿刺後頭痛

物質またはその離脱による頭痛

薬物乱用頭痛

感染に伴う頭痛

細菌性およびウイルス性髄膜炎

ホメオスターシスに伴う頭痛

高血圧と頭痛

顎性、眼・耳鼻科疾患口腔外科による頭痛

顎原性頭痛

Orofacial pain(口腔顔面痛学)、顎間節症

眼科領域の頭痛(急性閉塞隅角緑内障など)

耳鼻科領域の頭痛(慢性副鼻腔炎など) 心身医療、精神医学的な頭痛
パニック障害, 抑うつ, 身体表現性障害と頭痛
神経痛・顔面痛
三叉神経痛
寒冷刺激による頭痛(アイスクリーム頭痛)

8. 頭痛に関連する検査/画像診断

9. 珍しい頭痛疾患 Rare headache disorders の知識 (飛行機頭痛、入浴頭痛、赤耳症候群など)

.頭痛の治療と管理

ねらい

治療計画を立案できる

- a. 片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛、その他の一次性頭痛の的確な診断の元に、患者の安全を優先した治療計画を立案し、急性期治療、予防療法を行える。適切な患者指導を行える。
- b. 頭痛診療において、頭痛患者の尊厳を認め、訴えを傾聴し共感する。守秘する
- c. 頭痛の集学的治療を構築できる
(神経内科-脳神経外科-心療内科-ペインクリニック、その頭痛関連各科)
- d. 頭痛の入院治療の対象を選択し、治療できる
- e. 頭痛診療アルゴリズムを利用できる
- f. 地域、国の保健資源、インターネットサイトにアクセスし、利用できる

治療(各頭痛タイプに共通)

(薬物)治療計画

急性期治療

片頭痛の急性期治療薬の種類とエビデンス、作用機序、使い方、使い分け
予防療法

適応、予防療法の種類とエビデンス、作用機序、使い方、使い分け、共存症の知識
処方薬(西洋薬)以外の治療法

認知行動療法、東洋医学的治療(漢方、鍼灸)、OTC 治療、代替・補完療法(ハーブ、サ
プリメント、非薬物的治療など)、ペインクリニック治療、外科的治療

薬物の安全性、副作用・有害事象

妊娠・授乳中への対応

治療に対するノンリスポンダー、難治例の原因追究と対策

予防・指導(服薬指導、生活指導)

最先端の治療の知識

ボツリヌス治療、頭痛の新薬

注:

サプリメント(栄養補助食品): ビタミン B2 療法、マグネシウムなど

ハーブ: フィーバーフュー、西洋フキなど

OTC: Over the counter、一般用医薬品、大衆薬、市販薬

補完・代替医療 (complementary and alternative medicine ; CAM)とはハーブ、サブリメ
ント、非薬物的治療を含む。広義には漢方、鍼灸治療を含む

非薬物的治療(体操、運動、ストレッチ、物療などを含む)

2. 一次性頭痛の治療

a. 片頭痛

治療計画、急性期治療、予防療法、薬物療法以外の治療

トリプタン系薬剤の知識(エビデンス、作用機序、適正・適期使用など)

エルゴタミン製剤、NSAIDs、カフェイン、制吐薬、その他の知識

"step-care"と"stratified-care"の理解

片頭痛療法

予防療法の適応

種類とエビデンス(遮断薬、Ca拮抗薬、抗うつ薬、抗てんかん薬など)

治療計画、複数の予防療法の使いわけ

3. 緊張型頭痛

治療計画、急性期治療、予防療法、薬物療法以外の治療

慢性緊張型頭痛のマネジメント

4. 群発頭痛の治療

治療計画、急性期治療、予防療法、薬物療法以外の治療

慢性群発頭痛のマネージメント

TACs(三叉神経・自律神経性頭痛)の治療

5. ER(救急室)での頭痛診療、頭痛急患への対応、頭痛の救急医学

ねらい：救急室や一般外来での頭痛急患に対応できる、突然の頭痛に応急処置と緊急検査ができる、雷鳴頭痛の知識を有する

6. 二次性頭痛の治療

ねらい：二次性の頭痛の診断に基づき治療を構築できる。頭痛に関するコンサルテーション、紹介システムを利用できる。

.頭痛の特論

1. 小児・思春期の頭痛

a. 種類と特徴

一次性頭痛、小児片頭痛、二次性頭痛

b. 小児・思春期の診断

c. 小児・思春期痛の治療

急性期治療薬、予防療法

2. 女性の頭痛

a. 妊娠中、授乳中の頭痛治療

b. 月経時片頭痛の診断と治療

c. 更年期の頭痛

d. ホルモンの影響とホルモン治療

e. 性差医療

3. 高齢者の頭痛

a. 高齢者頭痛の原因、診断、治療

4. 薬物乱用頭痛

a. 概念

- b. 病態
 - c. 診断基準
 - d. 治療
 - e. 予防・指導(服薬指導、生活指導)
5. 慢性連日性頭痛
- a. 概念
 - b. 分類と診断
 - c. 治療
 - d. 予防・指導(服薬指導、生活指導)
6. 共存症(comorbidity)
- a. 一次性頭痛(とくに片頭痛)の共存症の概念
 - b. 共存症の種類(不安、抑うつ、パニック、めまい、てんかんなど)
 - c. 共存症のある場合の治療選択、禁忌
7. 片頭痛と脳卒中 (Migraine and stroke)
- a. 片頭痛と脳梗塞、白質病変 White matter lesion の関係
 - b. 卵円孔開存と片頭痛
 - c. 片頭痛における心血管病のリスク

頭痛医療

1. 頭痛に関する医療システム
- a. プライマリー医師の役割
 - b. 頭痛専門医の役割
 - c. 頭痛外来・クリニック
 - d. 総合診療科の役割
 - e. 専門医への紹介のタイミング
 - f. 医療連携(病診連携)
 - g. 産業医、脳ドック医、校医、コメディカル、薬剤師、看護師との連携
 - h. 家庭、職場での頭痛
 - i. 頭痛診療のリスクマネージメント
2. 診療スキルと患者教育・指導

- a. 頭痛診療に関して適切な文書化処理と医学記録が可能である
 - b. 心理的、社会的因子ないし背景の把握と理解
 - c. 対人的なコミュニケーションスキルを磨く
 - d. コミュニケーションツールを使用して患者と効果的に情報交換できる
 - e. 頭痛外来指導：科学的で平易な治療の説明を行える。患者およびその家族を教育する
3. 学習と生涯教育
- a. 生涯にわたり頭痛のサイエンスを学習する
 - b. 生涯にわたり頭痛のクリニカルな知識を向上させる
 - c. 生涯にわたり頭痛の診療技術を向上させる
 - d. 積極的に研究会、学会、学習会、カンファランスに出席する
 - e. 積極的に頭痛の文献を学習する

文献

Young WB, Rosen N, Sheftell F: Square one: headache education for the medical student. Headache 47:351-4, 2007.

日本頭痛学会【編】、これで治す最先端の頭痛治療、保健同人社、2006-11-20 出版。

日本頭痛学会【編】、慢性頭痛の診療ガイドライン、医学書院、2006-02-15 出版